



大森六中だより

令和4年 5月号
大田区立大森第六中学校
統括校長 菅野 哲郎
TEL 3726-7155

One for all, All for one



東北修学旅行

5月11日から13日にかけて修学旅行を実施しました。3日間をとおして3年生は良き伝統を継承し、挨拶や話を聞く態度が素晴らしく、行く先々で本校の名声を高めました。とても誇らしく思います。

さて、本校の修学旅行はこれまで農業体験を主としていました。しかし、新型コロナウイルス感染症により、一昨年の修学旅行は中止となり、昨年度と今年度は残念ながら農家の方が引き受けられないとのことでした。そのため、東北大震災の遺構を訪ね、語り部の方から当時の状況を説明いただくなど、1・2年生時の防災学習のまとめとしました。

私は昨年度に続き2回目の訪問となりましたが、偶然同じ語り部の方のグループに入りお話を伺うことになりました。甚大な被害を受けた気仙沼にある向洋高等学校の旧校舎の一部が当時の状況そのままに残されていて、津波の脅威をまざまざと感ずることが出来ます。4階建ての校舎の4階まで浸水し、3階には流された自動車が入り込んでいます。校舎の4階の外壁は、流された鉄骨の冷凍倉庫が衝突してえぐれています。何故、重量のある鉄骨の建物が浮いて流されたのか。その答えが4階の教室に残されていました。それは冷凍倉庫ならではのもの。厚い断

熱材でした。その断熱材が浮力を生んでいました。屋上では、その場所から撮られた家が流される画像のパネルを用いて当時の緊迫感のある状況を伝え聞きます。そして、その家屋が語り部の方の住んでいた家であることを知らされ、さらにこの津波で語り部の方はご家族を亡くされたことと聞かされてショックを受けます。

説明の最後に語り部を務める理由を話されます。できれば辛い記憶は忘れたい。だから語り部を務めるのは辛いこと。しかし、自分と同じ辛い思いを他の人にして欲しくないから、この教訓を伝えたいという気持ちで務めているとのこと。ご家族は震災前のハザードマップに示された避難場所に避難して被災されたそうです。そのため、生徒にはそうした情報だけに頼らず、より高い場所に避難することが自分や大切な人の命を守ると訴えられました。

運動会に向けて

修学旅行が終わると、運動会練習が本格化します。そこで、5月16日の朝礼で「みんなで跳んだ」というYouTubeの映像を視聴してもらいました。クラスの優勝という目標以上に大切なもの。それはクラスのチームワーク。運動会をとおしてクラスの結束がより固まることを期待しています。

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

ユネスコスクールとして

平成23年1月に正式加盟し、ユネスコスクールとして11年目となりました。昨年度の卒業生もさまざまな活動を行い、持続可能な社会の担い手として、巣立っていきました。この4月新たに入学した1年生も、3年間かけて六中生の顔になるためのスタートを切ったところです。

今年度のスタートも感染症対策を講じた上で、平素の教育活動を取り戻そうとしています。3年生による学校防災訓練、修学旅行、5月下旬に行われる運動会、2年生のまちなか点検、1年生のそなエリアでの防災体験など、形を少しずつ変えながらも未来に起きうる課題に立ち向かうための力と態度を身につける活動を行っています。

今年度の研修テーマは「持続可能な社会を構築する担い手の育成を目指して」～未来を創造するコンピテンシーとは～です。ユネスコスクールがまだ全国的で30校程しかないときから始まり、今や1000校を超える数になり、パイロット校としての責務が本校にはあります。今年度の研究テーマも先行研究にあたります。大田区教育委員会研究推進校として、1年間の成果は年度末に中間発表としてまとめていきます。

経済協力開発機構（OECD）が社会の状況をよりわかりやすく提示するために、調査研究を行っています。PISAと呼ばれる国際的な学習到達調査で日本もこの調査に参加しています。その中で、今年度の研修テーマの副題でもある「未来を創造するコンピテンシー」を生む力と態度について言及しており、

- ・相互作用的に道具を用いる能力
 - ・異質な集団で行動する能力
 - ・自律的に行動する能力
- の3つをあげています。

これからの未来を創造する担い手として、「知識・情報や技術を活用する能力」「考えの異なる仲

間と協力して問題を解決する能力」「未来を予測し、つながりを重んじ、自ら積極的に活動する能力」が必要であると考えています。

六中の多くの活動の中で、これらの力が育まれることを期待しています。

SDGsの取組

ESD（持続可能開発のための教育）を推進していくためには、SDGs（持続可能な開発目標）の達成が必要です。昨年度卒業生が作成したSDGs20番は「個性を認め合える社会に」です。多様化する社会の中で、お互いの個性を認め合える社会づくりを目指しています。六中の教育をご理解いただき、今後とも保護者の方、地域の方々に支えていただきたいと思います。



今年度初めての農援隊活動

農援隊は、六中ボランティア団体の名称です。ボランティア活動に興味のある生徒が、活動できる時間に参加します。本校は勝海舟別邸跡地に建ち、幕末志士の海援隊に因んで付けられました。

今年も約半数にあたる193名が加入しています。人が困っているときは、進んで助けたい。人の役に立つ人間になりたい。友達と協力するのは楽しい。地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている。このような気持ちが農援隊の活動の根幹になっています。自己肯定感、自己有用感を持つことができない生徒が多いと言われている昨今、農援隊の活動を通して、自尊心（をもつこと）の高まりにつながってくれることを期待しています。



学校防災訓練

4月23日(土)、3年生を中心に学校防災訓練が実施されました。地震発生後、本校が避難所になったことを想定し、情報班・避難所班・地域班に分かれて活動を行いました。実践したからこそその学びは多く、災害に備えて必要なことを見つめなおしていました。



防災の視点から自分たちの地域を見つめなおしました。

第2学年まちなか点検 「履霜堅氷」

5月13日にまちなか点検を行いました。今年は3年ぶりに自治会の方々や消防署、消防団の方々のご参加を得て、防災・減災ならび交通事故の未然防止の視点から自分たちの地域を見つめることができました。見慣れたまちのはずなのに、なんと発見の多かったことか。地域の方に学び、将来の地域の担い手としての役割をしっかりと自覚する活動となりました。



開会式



自治会・消防署・消防団の方々有難うございます



出発です



雨は降ったりやんだり… メモを執ったり写真を撮ったり… 田園調布消防署雪谷出張所青山所長様の講評



発表準備



校長室からリモートで発表会



子どもと保護者のための教育相談（こころの輪メール相談）について

大田区では、学校生活に関する悩み、生活面での悩みに関するメールでの相談窓口（こころの輪メール相談）を設けています。相談をしたい場合には、kokoronowa@city.ota.tokyo.jpまたは、右の二次元バーコードがリンクしているメールアドレスにお悩みの内容を送信してください。また、生徒の皆さんへ配布した大田区公式キャラクターはねびょんキーホルダーの裏にもメールで相談できる二次元バーコードが書いてあります。中学生本人からの相談も、保護者からの相談も受け付けています。



（「子ども電話相談 ☎03-5748-1203」を利用することもできます。）

※送信の際は、区から貸与されているタブレット端末以外の端末を御利用ください。